

レーゼクライス塾通信

(1999年 第4号) (11月28日発行)

(1999/11/28)

【塾へ行く一番の理由は成績を上げるため?】

26日の「四国新聞」に丸亀の中学生の書いた『成績第一の考えはダメ』という文章が掲載されていました。少し引用しましょう。《……塾へ行く一番の理由は成績を上げるためだろう。でも、その成績をつけているのは、ほかでもない学校なのだ。極端に言えば、学校がテストの点で生徒を評価しているからこそ、生徒たちはテストの点を上げるために塾へ行くのだ。そして、塾は点の取り方しか教えない。ものすごく悪循環である。……どうせ塾でやるからと学校の授業をおろそかにする



人もいる。でも、それで本当にいいのか。いや、そんなことじゃダメだ。勉強するということは、テストでいい点を取るだけのことじゃないはずだ。学ぶということは、もっといろんな意味があるはずだ。……塾や学校は、学ぶことの大切さや楽しさをもっとちゃんと考えて教えていかなければならない。…」文章からも明らかなように、彼は、「成績を上げるため」に塾に行くことに疑問を提示し、なおかつ塾の方にもそうではない在り方を求めている。しかし、現実はどうでしょう。多くの塾も家庭教師も、そうしたことを「宣伝」(中には、「不安」を煽り、「～点」上がったという者さえいる!)しています。少なくとも、私たちは、「成績を上げるため」ということを言ったことはありません。(結果として「成績が上がる」ことは多々ありますが)そうではなくて、『学習すること』を通して、それをきっかけにして、『努力すること』を学び、『人間の成長』をとげることにも主眼を置いています。仮に「成績」がよくても、それを自慢し、友達への思いやりを欠き、自分本意の行動しかできない者は、拒否します。ある問題を分かっている者が、分からない者を教えたり、上級生が下級生を教えることは当然のことである、とあって

います。自分が懸命に努力すること、その姿勢を見せることこそが友達への本当の思いやりであることも。(記事の筆者は、塾生ではありません。)



【なぜ「成績」を言うのか?】今まで「成績」(中間試験や学力テストの、しかも上位者)を記述してきたことの真意を、この際だから明らかにしておきましょう。上で述べたように、私は、「塾へ行く一番の理由は成績を上げる」ためではないと思っています。今の時代に、塾でしかできないことが余りにも多くあります。(今の「学校」の「桎梏」状況については、別の場所で(ホームページでは「塾長の論文集」に、ホームページを見る機会のない人には『塾案内』の冊子で)述べています。未来を担う子供たちが考えなければならないことを、特にやらなければなりません。少なくとも、そのような視点からしか塾の存在意義はないと思っています。そうしたことを公言し、「成績を上げること」を目指さなくても、努力する姿勢、『原則的学習』を継続する意志さえあれば、「成績」などは、結果としてついてくるものであるし、トップなども簡単にとれることを『証明』するためなのです。「横見」をしたり、「不正行為」をしたり、「勝手な行動」をしたり、「役割を無視」したり、「人の『質問』を無視」したり、「自分は分かっているとして説明を聞かなかつたり」、「再テストで不合格点」をとったり、「平気でおしゃべり」をしたり、「テストがあるからと適当に欠席」をしたり、「部活などで授業を休んだり遅刻したり掃除をサボったり」、……そのようなところからは、それなりの結果しか生まれません。昔、高校時代の恩師がおっしゃったことがあります。『百姓は米を作る。上の百姓は土を作る。上の上の百姓は人を作る。』いつでもそうですね。生徒が努力できる人間になる、根気強く継続できること、自己反省をきちんとできることこそが、『学ぶこと』の目的であるし、塾の存在価値でもあるでしょう。「何?成績を上げたいって?」「そんなの簡単だよ。君が上げられる人になればいいんだよ。」

(1999/11/25)

【定数減！】今日(といっても今はもう26日の朝の4時過ぎ!)、来年の公立高校の定員が発表されました。丸亀高校、坂出高校とも1クラス減って、320名の定員です。厳しいな、というのが実感です。来年の中学卒業生が(県全体で)400名余り減るので、公立の定員も300名余り減らすのだそうです。なぜ??1.26倍という今年並みの倍率を維持するのだそうですが、(そういう理由は「もっともらしい」のですが)本当にそうでしょうか??過去のも含め、こうした定員減少には、似通った比率がありますね。どう見ても、「私立のため」としか考えられません。私立が、その『魅力』で生徒を引き付けるのでなく、こうした県教育委員会の「あたたか~い」思いやりで、一定の生徒を確保できるのはおかしいですね。それにしても、もし「私立」に対する「思いやり」からの政策なら、**なぜ思いやるのか**を考えてしまいますね!

【丸亀高校第3回学力テスト高1の結果】が、ほぼ出そろいました。結局、1・3・4・5・7・10・12・14・14・・・ということに。(順位です。351人中。)期待したよりは悪かったようです。今回は、「新人戦」なども重なり、準備が十分ではなかったようです。日々の努力を怠った者には、それなりの結果も出たようです。第4回での頑張りを期待しましょう。明日には、高2の成績がほぼ出てくるでしょう(?)最近、いわゆる「一覧表」が張り出されない(何でもプライバシーの問題とかで)ため、それぞれがどれだけできているのが分かっていないようです。**塾での平常のテストやA~Cクラスとの相関関係に対する認識も甘い**ようです。何とか、一覧表を作成しましょうか。

(1999/11/23)

【季下に冠を正さず】再々テスト(再テストの再テストです!)の時間中に、不正行為があったとの通報があり、疑われた子たちに問いただすと、「話しをただけ」とのこと。答



案からは、はっきりとした「不正の跡」が発見できませんでしたが、そのような疑いを抱かれる行為をしたことについて、この故事を引いて話しました。以前から、一部の諸君に疑わしい行為がありました。例えば、Aクラス(Bクラス)で先にテストをすると、その内容を聞こうとする。あるいは、交換採点(塾では、よく交換して採点をします。**自分の間違いに気づかなくても、人の間違いには、気づくものですよね!**優秀なクラスでは、殆どいわゆる「つけ間違い」というのがあります!)をしている時に、・・・,更に、「実力テストや学力診断テスト」などで、兄弟姉妹や知人から過去の問題を入手し、それをする(基本的に、塾では、**学校のテストも含めて、「出る可能性のある過去問」**をすることは禁じています。),また、『読書感想文』を人のを写して出す等。そうした時、(ほとんど露見することが多いのですが)、怒りよりも、**社会に蔓延る「不正行為」の萌芽を発見して、愕然となります。**なぜ、子供たちはそのような行為をするのでしょうか?行為そのものの問題より、そのような行為をせざるをえない根本的な要因を考えなければなりません。しかし、『**不正を憎む正義感**』は、どうして失われてしまったのでしょうか?

【どうやら春の選抜に】丸亀高校が、初めて「センバツ」に行けそうです。掲示板では、「速報」という形でお知らせしてきましたが、今日(23日)四国大会が終わり、決勝には進めませんでしたが、優勝した今治西高校と準決勝で接戦をしたことから考えても、問題なく選出される



でしょう。恐らく1月31日には、決定するでしょうが。例年、センバツは3月25日からですから、恒例の『ソフトボール大会』の日程を慎重に決めなければならないようです!以前、夏の甲子園に行った時(夏期合宿とぶつかった時)は大変でしたが、今だに、行った人たちとは、会うと、よく話題に出ます。新聞紙で包んだ「おにぎり弁当」とか、平安高校との雨中の決戦とか、合宿所での応援練習とか、(合宿期間短縮による)「塾学習」への振り替えと

か・・・。あれからもう10年ですか。あのころ、高校2年だった熊さんは、今、塾のスタッフとして働いているし、中学3年だったK多君は設省の官僚だし、ホームページの元管理人は来年から司法修習だし、・・・他のみんなどうしているんだろう？

【今どき、テストを受けただけで合格者数に数えるとは！】受験が近づくと、いろいろな「宣伝」チラシが新聞に入ってきます。高校入試用の「テスト教室」を行っているところがあります。しかし、気軽にそのテストを受けようものなら、それで、「～高校合格者」として、その「合格実績」に数えられてしまうのです。(こういう言い方はおかしいんですが)塾でも、テストを受けた者だけを合格者として数えるということは今では少なくなっています。しかも、いわゆる「有名高校」の「合格者数」を(グラフつきで!)堂々と宣伝しているのです。そういう「業者」が「学校法人」ですから、何をかや言わんや、ですね。

(1999/11/21)

【アラカルト学習にて】19日は、中1と中2の「アラカルト学習」(理科・社会について、主には各学校の「ワーク類」を解き、個別に質問する時間です。)の日でした。子供たちの学習している様子を「観察」(時々ですが、解く時間を与えて、その解く様子を観察するのは、非常に面白い!)していると、子供たちの今の時点での「学力レベル」が分かって面白いものです。もくもくと解いている子、眠そうに(沈黙の時間もありますから)、でも何とか解いている子、教室の時計やこちらの様子をよく窺う子(これは、集中力のない子、あるいは、集中力の継続しない子です)、ワーク類や教科書類を持ってくることもなく、今しなくてもよいテキスト等をしている子(これは、カリキュラムを見ることもしない子ですね。もちろん集中力も不足していますし、横や前後の子に「チョッカイ」を出すこともあります。)などいろいろです。もちろ



ん、要注意なのはとの子ですね。アラカルト学習は、原則として試験(今回の場合、2学期期末試験)前にすることが多いんですが、(いかに「学校成績」からの脱却と言っている)、悪いよりは良い方がいいですから、そのとの子の扱いが特に問題になります。もちろん、結果も予想できますね。『今、自分が何をするか』すら予定として把握していなかったり、学習することの重要性の認識が欠けているんですね。(認識さえできれば、集中力は必然的に出てくるでしょう。「やらされる学習」でなく、自分でやらねばと認識し、予定することができれば。)それは、方法論の問題(何をするか、とか、どうやってするか、とか)ではありませんね!(そのために『合宿』なども行っているんですが・・・!)いずれにせよ、その子たちの「日常生活」の中での「阻害要因」が多すぎますね。

【2学期中間試験結果その後】あれから(10月20日)もう1ヶ月もたとうというのに、まだ全員の成績が集まりません。(F中学での「コンピューター故障」とかの理由による遅れが大きな原因ですが)でもほぼ全体像はつかめてきました。前回のに加えて、附属中学では1年と3年、また普通寺東の2年と、新たな「トップ」が3名増えました。もう少しで2桁だったんですが、残念なところですね。でも上のとの子の一部のちょっと「悲劇的な」のも気にはなりません。来週には『自己分析表』(何をどのように学習し、どう改善しようとしているのかを自分で分析したもの)の提出ということになりそうです。

【中2病について】例年、中2の時期には(恐らく身体の成長とのアンバランスの上から)、いろいろな問題が多発します。しかし、今年の中2の子供たちは(特に男子)、どうも「変」です。アラカルト学習のところで書いたとの子が例年以上に多いんです。しかも、厳しく注意すると、「反抗的態度」(黙ったり、口をゆがめたり)を見せることもあります。(くれぐれも「注意」は、「成績」についてでなく、あくまで学習姿勢についてですが。)何かに、



「誉める学習」の弊害が論じられていましたが、恐らく論理的に厳しく叱られたことがないのではないかともしわされます。今後の課題です。

【Yellow Card **その後**】これもちょっとした驚きなのですが、どうも「Yellow Card」をもらったことを一種（内心では？）喜んでいるのではないかと推測するものがあります。（決して「保護者」でなく「本人」がです（笑））隔々まできちんと学習する習慣がもちろんなかった訳ですが、やはり、『何とか取り戻したい！』という気持ちがあったことに、半分安心もしています。「課題」を考え対応するこちらも大変ですが！



(1999/11/17)

【**「横見」について**】「横見」は、別名「カンニング」とも言います。これについての注意は、今まで何度も行ってきました。最初に塾に来る小学校5年生への注意はここ（できなくてもいいから、人を見るな！）から始まります。どうも、各小中学校で、余りそのことの注意がなされていないように思います。むしろ、「グループ学習」や「班学習」という名で、（一体、こういう概念を持ち込んだのは誰なんだろう？）相談するのが当然のような雰囲気さえあります。そうした中で、『たとえ0点でもいいから、見て書いたものより自分の責任で答えること』を強調するのは、時には「しんどい」作業です。そして、こうしたことを記述しているということは、まだ0名にはなっていないということです。こちら（スタッフ側）では、「横見」をしている子は分かっているのですが、問題はそのような行為をする理由です。それが、「点数」に対する一種の圧迫感からのものか、何らかの外的な（主には家庭の）圧迫なのか、あるいは・・・？いずれにせよ、そのような「不正行為」を拒絶することの大切さをもっと強調しなければならぬと思っています。塾の過去のテストを塾でのテスト「対策的に」することも同じです。同じ問題をすることもありますから。それらは、常々強調している『原則的学習』とは程遠いものです。テ

スト範囲を隔々まで、精一杯努力すれば、それでいいのですから。



【**宿題をしていないときに**】どのような行動をとれるかは、面白いものです。塾では、塾のテキスト（もちろん自作の）を中心に平常、授業しています。今日、あるクラスで授業中に、（宿題をしていなかったと見えて）、今やっている問題でなく、**その後の問題を解いている子**がいました。大多数の子は、今やっていること、今他の子が困っていることについて一緒に考えています。（分かっているも！）もちろん、授業は、そこでストップです。「宿題をやっていない」という失敗を、コソコソ取り戻そうとするな！ということをお話するために。失敗は失敗として認め、今やっていることに集中することが大切であることを強調するために。そのクラスは、各中学のトップの子が3名いるんですが、彼ら（彼女ら）は、もちろん、『**食い入るように**』見えています。結局、その差なんだと思います。そして、「個別」でなく、問題があるときは一緒に考える（授業中ももちろん一緒に考えますよ）というのが、レーゼクライスなんだと思います。確かに「効率」は悪いかも知れませんが、当面の「問題」を解くことが「学習」だとは思いません。『**姿勢**』さえできれば、「お勉強」などは、**楽にできるのだ**ということです。そういう意味では、私たちの行っていることは、個別的な「学習内容」ではなく（それもある程度は重要でしょうが）、**学習姿勢そのものの獲得である**、と言っていいでしょう。塾で過ごさない時間の方が圧倒的に長い訳ですから、塾で少々学習して、いわゆる「できる」はずがありません。そしてまた、家庭でも四六時中「監視」することは不可能ですから、いわゆる「親の前だけ」で学習しても、できるはずありません。問題は、不正を排し、自分の力で、『**類的**』（そもそも学習行為は、人類全体という視点で為されるべきものです。個人的利益でなく。）意識を持ちつつ努力を継続できるかというところにあります。そのような姿勢を目指すのであればいいのだと思います。